

7. 短報

1. 『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ—』の刊行

2009年2月に、小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ—』（大阪大学出版会）が刊行された。全512頁（口絵4頁+xii+496頁）で、B5判、価格は7,980円（税込）、ISBNコードは978-4-87259-266-5である。部・章の構成は以下のとおり。

第I部 外邦図とは

第1章 近代日本の地図作製とアジア太平洋地域
（小林 茂）

第2章 外邦図の嚆矢と展開（清水靖夫）

<扉：乍浦鎮（二万五千分一空中寫真測量上海近傍南部第二十七號）（小林 茂）>

第II部 外邦図の所在と特色

第1章 日本および海外における外邦図の所在状況と系譜関係（久武哲也・今里悟之）

第2章 国立国会図書館所蔵の外邦図（鈴木純子）

第3章 在アメリカ外邦図の所蔵状況—議会図書館とアメリカ地理学会地図室の調査から—（今里悟之・久武哲也）

第4章 旧日本軍撮影の中国における空中写真の特徴と利用可能性（長澤良太・今里悟之・渡辺理絵・岡本有希子）

<扉：アメリカ議会図書館の地理・地図部の書庫（小林 茂）>

第III部 外邦図の構成

第1章 陸地測量部外邦図作製の記録—陸地測量部・参謀本部 外邦図一覧図—（長岡正利）

第2章 台湾の諸地形図について（清水靖夫）

第3章 日本統治機関作製にかかる朝鮮半島地形図の概要（清水靖夫）

第4章 樺太の地形図類について（清水靖夫）

第5章 北方領土・千島列島の地形図類（清水靖夫）

<扉：朝鮮半島の「略図」の測図年別分布（岡田郷子）>

第IV部 外邦図の作製過程

第1章 植民地化以前の韓半島における日本の軍

用秘図作製（南 榮佑）

第2章 アジア太平洋地域における旧日本軍および関係機関の空中写真による地図作製
（小林 茂・渡辺理絵・鳴海邦匡）

第3章 近代東アジアの土地調査事業と地図作製—地籍図作製と地形図作製の統合を中心—（小林 茂・渡辺理絵）

第4章 日本の兵要地誌に関する一研究—中国地域を中心—（源 昌久）

第5章 南西太平洋方面における地図資料（田中宏巳）

<扉：孤榆樹附近目算並記憶測図（金 美英）>

第V部 終戦前後の陸地測量部と水路部

第1章 終戦前後の陸地測量部（塚田建次郎・富澤章）

第2章 終戦前後の地図と空中写真，見聞談（佐藤 久）

第3章 第二次世界大戦中の機密図誌（海図・航空図）（坂戸直輝）

第4章 史実調査部と地図の行方（田中宏巳）

第5章 参謀本部からの外邦図緊急搬出の経緯（田村俊和）

<扉：硫黄島の空中写真（波江彰彦）>

第VI部 兵要地理調査研究会

第1章 『兵要地理調査研究会』について（久武哲也）

第2章 兵要地理資料集録（渡邊正氏資料）解説（高木 勲）

第3章 陸地測量部から地理調査所へ（金窪敏知）

<扉：兵要地理上必要ナル米軍主要戦車諸元表（波江彰彦）>

第VII部 外邦図のデジタルアーカイブの構築と公開

第1章 外邦図デジタルアーカイブ構築の経過と今後の課題（村山良之・照内弘通・山本健太・関根良平・宮澤 仁）

第2章 外邦図デジタルアーカイブの公開に関する課題（宮澤 仁・村山良之・小林 茂）

<扉：東北大学における外邦図収蔵状況（渡辺信孝）>

第VIII部 外邦図の利用

第1章 外邦図は「使えるか」？—中国とインドの場合—（石原 潤）

第2章 地域環境変遷研究への外邦図の活用（田

村俊和)

第3章 韓国における外邦図(軍用秘図)の意義と
学術的価値(南 榮佑・李 虎相)

第4章 Urban Monitoring Using Former Japanese Military Maps and Remote Sensing: The 100 Years of Urban Change of Jakarta City (J. T. Sri Sumantyo, I. Indreswari S., and R. Tateishi)

<扉: 漢口附近揚子江氾濫區域要圖(小林 茂)>

全4冊と解説・総目次を収録した別冊が刊行された。これは、1939(昭和14)年3月頃刊行された初編(自明治二十八年至同三十九年断片記事)から1945(昭和20)年1月に刊行された第十七編・第三十卷(大正十五年度記事)までの『外邦図測量沿革史 草稿』を復刻したものである。全1,310頁で、A4判、各巻価格は29,400円(別冊のみ1,050円)、揃価格は118,650円(いずれも税込)、ISBNコードはそれぞれ、第1冊:978-4-8350-6238-9、第2冊:978-4-8350-6239-6、第3冊:978-4-8350-6240-2、第4冊+別冊:978-4-8350-6241-9、別冊のみ:978-4-8350-6242-6である。各巻の構成は以下のとおり。

2. 『外邦測量沿革史 草稿』全4冊・別冊の刊行
小林茂解説『外邦図測量沿革史 草稿』(不二出版)

『外邦測量沿革史 草稿』の構成

番号	編および巻	収録期間等	刊行年月	備考	収録冊
1	初編前編	自明治二十八(1895)年至同三十九(1906)年断片記事	1939年3月頃	冒頭に「謹告」・「外邦測量ノ閥歴」、目次のあとに「緒言」。	第1冊
2	初編後編	自明治二十八(1895)年至同三十九(1906)年断片記事	—	1895~6年の台湾の測量関係記録を含む。	
3	第二編前	明治四十(1907)年度記事	—		
4	第二編後	明治四十(1907)年度記事	—		
5	第三編前	明治四十一(1908)年度記事	—	冒頭に明治40年度の記事も含む。末尾に「告白」として資料の不足を記す。	
6	第三編後	明治四十一(1908)年度記事	—		
7	第四編	明治四十二(1909)年度記事	—		第2冊
8	第五編	明治四十三、四(1910、11)年度記事	—		
9	第六編前	明治四十五(1912)年度大正元年度記事	—		
10	第六編後	明治四十五(1912)年度大正元年度記事	—		
11	第七編	大正二(1913)年度記事	1940年4月頃	冒頭の「豫告」で、臨時測図部の解散と秘密測図の継続にふれる。末尾に「會合雑話」、「雑録」、「追録」、「連載附録(支那駐屯軍記録)」。	
12	第八編	大正三(1914)年度記事	1940年6月	末尾に「連載附録(支那駐屯軍記録)」。	
13	第九編	大正四(1915)年度記事	1940年7月	冒頭に「大正三年度臨時三角測量班の編成」。末尾に「雑録」、「連載附録(支那駐屯軍記録)」。	第3冊
14	第十編	大正五(1916)年度記事	1940年8月	末尾に「雑録」、「連載附録(支那駐屯軍記録)」。	
15	第十一編前	大正六(1917)年度記事	1940年9月	冒頭の「謹告」で大正五年度に関する資料の不足を指摘。	
16	第十一編後	大正六(1917)年度記事	1940年9月		
17	第十二編前編(第十七巻)	大正七(1918)年度記事	1941年6月	「臨時外邦測量第一班作業實施經過」および「洮南地方兵要地理調査ノ實況」を掲載。	

18	第十二中編（第十八巻）	大正七（1918）年度記事（臨時土地調査班支那駐屯軍測量班）	1941年7月	臨時土地調査班の活動を掲載。末尾に「雑録」および「既往ノ雑話」。	第 3 冊
19	第十二下編（第十九巻）	大正七（1918）年度記事（西伯利出兵臨時測圖部ノ行動）	1941年12月	末尾に「續既往雑話」	
20	第十三前編（第二十巻）	大正七、八（1918～9）年度記事續編、臨時測図部ノ行動	1942年1月	末尾に附録として「西伯利ノ地帯」、「後貝加爾州ノ概説」。	
21	第十三中編、第二十一巻	大正八（1919）年度、續臨時測圖部記事	1942年2月		第 4 冊
22	第十三後編、第二十二巻	大正八（1919）年度、續臨時測圖部記事	1942年9月		
23	第十四編、第二十三巻	大正八九（1919～20）年度記事	1942年12月	冒頭で臨時測図部について、関係資料の不足および解散を記す。末尾の附録で山東省など測図地域の情勢を示す。	
24	第十五編、第二十四巻	大正九、十（1920～21）年度記事、間島地方臨時作業及十五年度 ¹⁾ 経緯度並地形測圖	1942年3月	末尾の附録で山西省や河南省の綿花・落花生・煙草・米・小麦の生産にふれる。	
25	第二十五編、第二十六編 ²⁾	大正十一（1922）年度記事	1943年11月	附録として「杭州城及西湖」、大正九年度分追加記事。	
26	第十五編、第二十七巻	大正十二（1923）年度記事	1944年3月		
27	第十六編、第二十八巻	大正十三（1924）年度記事	1944年9月	末尾に附録および「秘密測量者遺族扶助ニ關スル規程」を掲載。	
28	第十七編、第二十九巻	大正十四（1925）年度記事	1944年12月		
29	第十七編、第三十巻	大正十五（1926）年度記事	1945年1月	末尾に「明治二十七、八年戦役ニ於ケル裏面ノ活躍」および「殉國烈士十五年追悼會」	

注1) 十五年度となっているが、記載内容から大正十年度と思われる。

2) この記載は「第十五編、第二十五巻」あるいは「第二十五巻、第二十六巻」の誤記の可能性はある。前者が正しいとすると、別に「第十五編、第二十六巻」の存在が想定されることになる。ただし前後関係の検討だけから、これを確認するのは容易ではない。出典：『外邦測量沿革史 草稿』別冊「解説・総目次」26-27頁の表を一部改変。

3. 訂正

外邦図研究ニューズレター5号（2008年）84-90ページに、「高木菊三郎旧蔵の内邦地図一覧図について」と題する解説のほか、その目録を掲載した。大阪大学文学研究科人文地理学教室資料室に架蔵するこの一覧図類は、2007年の「明治古典会、七夕古書大入礼会」に出品されたもので、本研究関係者の話から、そのコレクションと考え、解説や目録のタイトルとした。しかしその後、「明治古典会、七夕古書大入礼会」への出品者である忠敬堂書店の今井哲夫氏とお会いして、その来歴をお聞きしたところ、一部軍関係のものは高木菊三郎旧蔵であるが、その他については、すこしずつ今井氏があつめたものとのことであった。これを記して訂正するとともに、今井氏の努力に感謝したい。なお、この一覧図のコレ

クションは、これまでの外邦図研究の成果である『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域』（大阪大学出版会、2009年2月）の編集にたいへん有用であったことを付記しておきたい。

4. ウェブページ「外邦図研究プロジェクト」を公開中

「外邦図研究プロジェクト」のウェブページを公開しています。これまで刊行した『外邦図研究ニューズレター』1～5号、および、『終戦前後の参謀本部と陸地測量部一渡辺正氏所蔵資料集一』の全文、ならびに、大阪大学が所蔵する外邦図の目録をPDFファイルでご覧いただけます。ウェブページのURLは以下の通りです。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/geography/gaihouzu/>